

# 松川小学校6年ろ組さん 「米粉」の体験学習 北安曇郡松川村立松川小学校

今回は、郷土の食文化を継承、地域のお米や特産品を使った新しい食文化の創造を目指して活動している松川村の「米粉専門店こめのこ工房なごみや」の吉森里和さんから、「ぜひ松川小学校へ取材に来てほしい!」との依頼を受け、令和5年2月1日に同小学校へ取材に伺いました。

6年ろ組(1~6年生まで「い・ろ・は」組なんですって!)では、6年生に進級後「総合的な学習の時間」(今はこういう教科(単元名)なんだ~と思いながら…)で米粉を題材にした授業を行っており、「地域のスペシャルサポーター」である吉森さんが米粉の魅力などを伝えながら、子どもたちと今まで一緒に活動されてきました。

取材当日は、姉妹学級である1年ろ組の児童と一緒に米粉料理を体験しようと「体験学習」の係のみんなで企画をし、調理室で米粉パン作りが行われていました。



忙しくも楽しく動き回っている子どもたちを捕まえて（？）何人かの児童が取材に協力してくれました。大人顔負けのコメントが続々出てきました！

（Tさん）

米粉の授業は楽しいですか？

米として食べていたものがお菓子になったりして、発見することが楽しい。

今まで米粉でどんな料理を作りましたか？

どら焼き、パンケーキ、蒸しパンとかをみんなで作りました。パンケーキは、ベーキングパウダーを入れたので、お米の甘さが引き立ってとてもおいしかったです。家でもお母さんに米粉のシチューを作ってもらいました。今、社会問題にもなっている物価高騰で小麦粉の値段も上がっているの、小麦粉の代わりになる米粉の良さををもっといろんな人に知ってもらって、もっともっと普及させたいです！

（Eさん）

6年生になってから、総合の時間で米粉の授業をしてきた感想は？

5年生の時に自分たちで作ったお米を米粉にしようということで活動が始まって、そのたびにワクワクしました。どんな味になるのか小麦粉と米粉を比べたりとかして楽しかった。みんなで米粉を使って蒸しパンを作ったら、きれいにフワッとふくらんでとてもおいしかったです。米粉の可能性を感じました！！

お家でもご飯のお手伝いはしていますか？

たまにお母さんのお手伝いをしているけど料理って楽しいです。米油を使ってお母さんに料理を作ってもらっているけど、米油を使うと本当においしいんです！ぜひ、多くの人に1品だけでもいいから、米粉や米油を使って料理を作ってもらいたいです。自分も米油を使って、から揚げを作りたいと思っています。



今日は1年生と一緒に授業をやっているけれど楽しいですか？

僕たちが1年生の時に6年生と一緒に授業をやった時に、すごく6年生にお世話になったので、今度は僕たちが1年生に同じ事をしたいと思っていたので、実現できてとてもうれしいですし楽しいです！一生懸命グラムを量ったりしているところとか、すごくかわいいです。



(Yさん、Hさん、Mさん)

米粉の授業を通して感じたことはありますか？

米粉の良さがよく分かりました。今日の授業は1年生に経験させることが目的だったので、1年生と6年生が一人ずつペアを組んで1年生主体で協力して生地をこねたりと楽しくできました。こねるのにはパワーがいるのでその辺は6年生がやったりね。

(と、最初は3人とも恥ずかしそうにしていたのが、緊張もほぐれたのか色々話してくれました。)

これまでの授業では新商品開発チームで提案をし、4つのグループに分かれてそれぞれ違う米粉商品を作りました。

- ①米粉ボーロ (卵アレルギーの人でも食べられる卵ボーロのようなもの)
- ②マカロン
- ③カレーと米粉ナン
- ④米粉ナンの中に卵とカレーを包んだナン

④は村内の「すずむし荘」で行った村の感謝祭で出しました！10個限定だったので、すぐに売り切れちゃったけど(笑)。

その後、吉森さんに協力してもらい、打合せをして「ふるさと納税の返礼品」で出そうと決めました。何を出そうかと決めるのはすごく苦労しました。アレルギーがあるものは使えない、保存が利く、どんな年齢層の方でも食べられるもの…を吉森さんと相談をしながらたどり着いたのが「米粉ボーロ」です。米粉ボーロは日持ちがするんです。ボーロの他に米粉マカロンも付けることに決定しました。

開発した新商品は『こめのこボーロ 6のろ』として、ふるさと納税の返礼品として取り扱っています！！



キャラクターも作ったよ。キャラクター名は「米さぶろう」です！！

米粉ソングも作ったんです♪

すご〜い！！みんなで作ったものが返礼品になって全国の人たちに届くなんて最高だね。最高で〜す！



(米さぶろうなど、イラストを見せてくれた子どもたち。授業後にはそれぞれノートにまとめているということで、そのノートも見せてくれました。)

(取材日の授業は、「体験教室係」のみんなが企画して行っていました。係を代表してお話を伺いました。)

(Rさん)

係のみんなで企画から考えてきて、今日の体験教室を終えてどうでしたか。

とても達成感があります。失敗もなく、だいたい時間どおりにできて良かったです。

姉妹組の1年生と一緒にやろうって考えたのはどうしてですか。

今日の授業は1年生に経験させることが目的で、1年生と6年生が一人ずつペアを組んでやることで、仲良くなれるし名前も覚えられるしいいかなと思ったのでそうしました。私たちは「米粉を広げよう」とこの活動を行っているので、1年生と一緒に体験することで家族の人にも紹介してくれるのではないかと思います、この機会を作りました。

まずは身近なところからの活動を考えたのね！1年生にとっても今日のこの授業は、6年生のお兄さんお姉さんと



一緒に米粉パンを作ったり、優しく教えてもらったり遊んだりという記憶が刻まれていると思いますよ。



数名の子どもたちに、吉森さんへのメッセージをお聞きしました！！

(Tさん)

「米粉の可能性」を教えてもらって、米粉の知識が増えたので感謝です。米粉の料理を教えてもらったり、ドーナツや、から揚げなども作ってもらっておいしかったです。

(Eさん、Yさん、Hさん、Mさん)

お米のすごさやおいしさを気づかせてくれて、ありがとうございます。この地域（松川村）にこんなすごい人がいて、ここに住んでいて良かったです。

(Nさん)

吉森さんはすご〜い！！力強い人です。



(Yさん)

お米のおいしさを教えてくれて、ありがとうございます！

(Oさん)

今までお米のプロジェクトで協力してくれて、ありがとうございました。

(Rさん)

吉森さんと一緒に作ったりできて良かったです。家でもクッキーを作ったので今度はドーナツに挑戦してみたいです。

お話を聞けなかった子どもたちも、みんな感謝の気持ちでいっぱいだと思います。



女性教員の方にもお話を伺ったところ…  
この授業を通して、自分たちが活動してきたことを知ってもらいたいという思いから、みんな堂々と自分の思いを話せるようになって成長しているなあと感じました。

との言葉をお聞きして、素晴らしい学校・先生・地域の人たちがいてくれるからこそ、児童の自己表現や学びにもつながっているんだなあと感じました。

最後に6年ろ組の担任である磯谷先生に、この活動を通して児童の様子をお聞きしました。6年生になって子どもたちがやりたいと言って始めた米粉の活動を今まで行ってきて、最初は作りたい物を自分たちで調べて、いろんな物を作ってきました。お菓子もできるしおかずにもなる米粉ってすごい！ということを発見して、地元で米粉についてすごい熱い思いを持って活動している吉森さんとは絶対に出会わせたいなあという思いがあったんです。子どもたちのやりたいという思いと、吉森さんの米粉への熱い気持ちを知る中でみんなの思いが合わさって、子どもたちがのめり込む活動ができたのではないかなと感じています。

吉森さんがいてくれたおかげで、子どもたちが米粉という素材に対して、もっと思いを寄せられて思い切った活動ができたし、自分たちがやっているコトってすごいんだ！とか、自分たちが夢中になっている米粉ってすごいんだ！っていう気持ちを持つことができました。プロの方の言葉だったり、プロの方から得た経験は子どもたちにとってもすごく魅力的だし、価値のあるものだなあと感じました。



村のお祭りがあったんですが、その時に吉森さんたちのグループが子どもたちと作った料理を商品化してくれたんですね。自分たちが作った物が商品として形になって、それを大人の人たちと同じ所で販売してくれたということが、とてもうれしかったんですね。イラストや米粉ソング、Web サイトも子どもたちで作り始めて、3月には公開しよう！と進めています。

また、ふるさと納税の返礼品として出品させていただくんですが、Web サイトのQR コード入りのチラシも作りました。これで活動納めになりますが、印象的なのは、6年間の思い出を書く卒業文集にも、数人はこの米粉の活動を書いているんです。卒業文集に書くほど自分たちが思いを持って活動できた、子どもたちにとってこの1年間はかけがえのないものになったんだなって思うと、吉森さんの存在ってすごくありがたいなと感じています。米粉でいろんな物を作って失敗もあったけれどすごく楽しかったとか、吉森さんに教えてもらったことを書いている子どももいました。

今日のように取材に来てくださることで、子どもたちは自分たちがやってきたことはすごいんだとか、いろんな人たちに知ってもらえるという喜びやうれしい気持ちなど、一つ一つを感じているんだと思います。今日はありがとうございました。



村の学校給食でも約2ヶ月に1度のペースで米粉パンや米粉のシチューが出されるとのことで、その日の6年ろ組の教室では、焼き上がりや味など米粉に対する興味があふれ出ているのだそう。

児童が自分たちで実際に作ったものと比べている光景があちこちで見られるそうです。今日の授業では、それぞれペアになった1年生の面倒を見る6年生の姿がとてもたくましくもあり、微笑ましかったです。

この米粉の学習は、子どもたちの思いや願いをどこまでかなえられるか模索しながら歩んできたという磯谷先生のお話を聞き、とても胸が熱くなりました。子どもたちの可能性を信じて温かく見守った磯谷先生はとても素晴らしいと思います。1年を通して米粉料理に留まらず、子ども自身が得意とする分野で子ども主体となって企画し、自発的に動き、それが授業として成り立っていたということは、子どもたちの自信にもつながっていく素晴らしい取組だったのではないかと感じます。

吉森さんと出会えなければなし得なかった商品化。  
更には村内に留まらず全国にまで広がる米粉商品。  
「米粉を広めたい」「米粉のよさを伝えたい」という吉森さんと子どもたちが、  
同じ思いを持っていたからこそ「ふるさと納税の返礼品」にまでつながっています。

温かく見守ってくれた先生方、ご家族、  
それに米粉の良さを教えてくださった吉森さんがいたからこそ、  
かなえられた事が多くあると思います。

この取材を通して、チャレンジしてみるこことって自由だし、必要だし、  
この先大人になってもとっても大切なことだと思えます。

小学校6年生の時の経験が、中学生や高校生、社会人になっても、  
何らかの形でいつか絶対に生きる時がくると思えます。  
自信を持って大きく羽ばたいてくださいね！！

この取材を通して、どこまで子どもたちの活動を伝えられたのか分かりませんが、  
6年組の卒業プレゼントとなれば幸いです。

